

# 付表・図(家庭の医学)

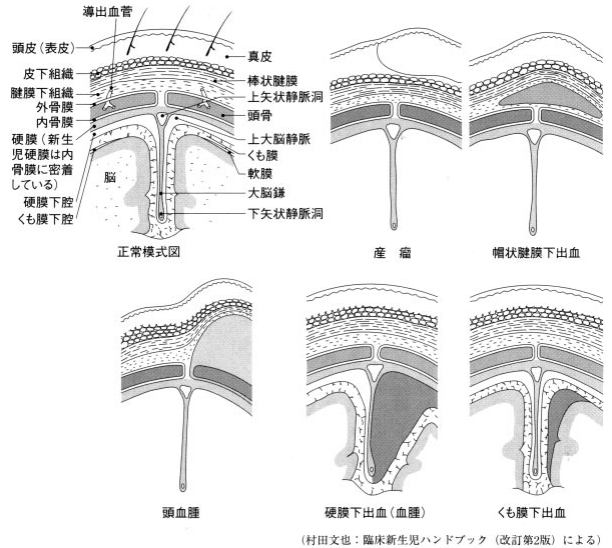
- ・見出し語の解説画面の中に「→資料・家庭の医学〇〇」と表示されたときは、この付表・図を参照してください。
- ・付表・図は、番号順に「資料・家庭の医学01～129」の順番で掲載してありますので、番号をもとに参照してください。

## 【資料・家庭の医学01】

診療科目(医療法で認められたもの)と診療する病気

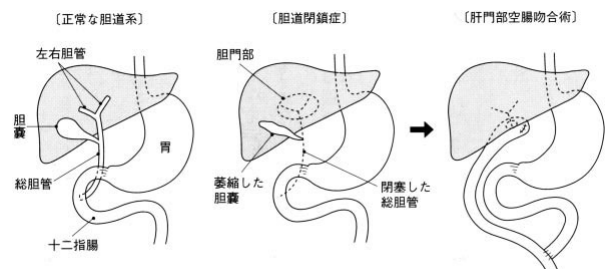
内科	薬を主として治療できる病気全般。診断をくらし、適切な専門診療科を紹介する	理学診療科	リハビリテーションや運動療法で機能回復を必要とする病気
外科	手術を主として治療できる病気	放射線科	X線、CT、MRIその他放射線、放射性同位元素や超音波を使った診断と治療
小児科	子どもの病気全般	麻酔科*	手術の麻酔や痛みの治療(ペインクリニックを含む)
皮膚科	皮膚・粘膜・毛髪・爪の病気	歯科	歯や口腔の病気
泌尿器科	腎臓・尿管・膀胱・尿道・男性性器の病気。男性の不妊	矯正歯科	歯並びや噛み合わせの異常
皮膚泌尿器科	皮膚科と泌尿器科をいっしょにした科	小児歯科	子どもの歯や口腔の病気と予防、歯並びや噛み合わせの異常
産婦人科(産科・婦人科)	正常・異常の妊娠から出産までの管理と治療。女性性器(外陰・陰・子宮・卵巣)の病気。月経の異常。女性の不妊	歯科口腔外科	手術で治療する歯・口腔・顎の病気やけが
精神科(神経科)	こころの病気	★の標榜は厚生労働省の許可を受けた場合のみ	
神経内科(神経科)	脳・神経系の病気	その他の診療科目 (専門医がいる大学病院や国公私立の病院で使用されているおもなもので、「科」でなく「部」という病院もある)	
リウマチ科(膠原病)	リウマチによる病気や膠原病専門	リハビリテーション科	病気や手術後の機能回復(理学療法上、作業療法士などの専門職がいる)
アレルギー科	ぜんそくなどアレルギーによる病気専門	内分泌(代謝)科	甲状腺等の疾患、ホルモン異常や糖尿病、肥満など代謝異常
眼科	目の病気と視力の異常	児童精神科	3歳以上小学生までのこころの病気
整形外科	骨・関節・筋肉・脊髄の病気とけが	老年科(老人科)成人病科	高齢者特有の病気や生活習慣病
耳鼻咽喉科	耳の病気と聴力・平衡の異常。鼻・のど(咽喉・喉頭・扁桃)の病気	未熟児科	2500g未満の出生体重児や早産児
呼吸器科	気管支・肺・横隔膜・縦隔・胸腺の病気を必要とする呼吸器の病気	心療内科	心因性の原因による身体の病気
呼吸器外科	手術を必要とする呼吸器の病気	糖尿病科	糖尿病と合併症
気管食道科	気管と食道の病気	ペインクリニック	痛み全般(おもに麻酔科が診療)
消化器科(胃腸科)	胃・腸・肝臓(胆嚢)・膵臓の病気	病理科	病理医による病気の診断(直接受診することはない)
心臓血管外科	手術を必要とする心臓・血管の病気	核医学科	放射性同位元素を利用した診療(直接受診することはない)
循環器科	心臓・血管の病気。血圧の異常	臨床検査科	患者の検体を採取あるいは診断機器を用いて検査(直接受診することはない)
脳神経外科	手術を必要とする脳・神経系の病気	救急(医学)科	救命・救急を要する患者を診療
小児外科	手術を必要とする子どもの病気	腎臓科	腎臓の病気や高血圧
形成外科	けが・手術・生まれつきなどによる障害部位の修復・再建	人工透析科	腎臓の病気に人工腎臓を利用した診療
美容外科	美容を目的とした部位の修復	総合診療科	科を特定しない病気全般
性病科	性行為によって起こる感染症		
肛門科	肛門の病気		

## 【資料・家庭の医学02】



(村田文也：臨床新生児ハンドブック(改訂第2版)による)

## 【資料・家庭の医学03】



●予防接種法による定期予防接種

対象疾病 (ワクチン)	接 種				備考	
	対象年齢	標準的な接種年齢	回数	間隔		
ジフテリア 百日せき 破傷風	沈痛精製 DPT ワクチン	1期初回 生後3~90月 1期追加 生後3~90月 (1期初回接種(3回) 終了後、6か月以上の 間隔をおく)	標準的な接種年齢 生後3~12月 1期初回接種(3回) 後12~18月	3回 1回	3~8週	・満1期で接種間隔 があった場合は、 すべてのやり直し はせず規定の回数 を接種する
	DT トキソイド	1期初回 生後3~90月 1期追加(1期初回接種 終了後、6か月以上の 間隔をおく)	生後3~12月 1期初回接種後 12~18月	2回(沈痛) 3回(液状) 1回	4~6週(沈痛) 3~8週(液状)	
ポリオ		生後3~90月	生後3~18月	2回	6週以上	・下雨がある場合は 延期する ・服用直後に吐き出 した場合は再服用 させる ・通常、春と秋に2 回おこなう
麻疹		生後12~90月	生後12~24月	1回		・麻疹の予防接種は、 標準的な接種年齢 のうちできるだけ 早期におこなう ・流行時には生後12 カ月未満の者に対 しても任意接種と しておこなうこと ができる この場合定期接種 を標準的な接種年 齢の間におこなう ・ガンマグロブリン 注射を受けたもの は3カ月(大量療 法の場合6カ月) 後におこなう
風疹		生後12~90月 12~15歳	・生後12~36月 ・中学生*	1回 1回		・幼児についておこ なう風疹の予防接 種は、麻疹接種の 後におこなうこと を原則とする ・中学生の男女とも 対象となる ・小学生については 以前に麻疹の予防 接種を受けたこと がある場合は接種 をおこなわない
日本脳炎		1期初回 生後6~90月 1期追加 生後6~90月 (1期初回終了後おお むね1年おく)	3歳 4歳	2回 1回	1~4週	
		2期 9~12歳 3期 14~15歳	小学校4年 中学校2年	1回 1回		

\*中学生について行う風疹の予防接種は、平成7年4月1日から平成15年9月30日までの間実施する

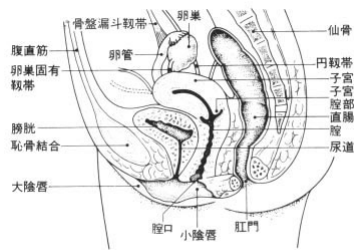
●結核予防法によるBOGの接種

種類	接 種			備考
	対象年齢	回数	間隔	
BOG	4歳未満の ツ反陰性者 小学校1年の ツ反陰性者 小学校2年の ツ反陰性者 中学校1年の ツ反陰性者 中学校2年の ツ反陰性者	各1回	ツ反判定後 2週間以内	小学校2年、中学校 2年は、それぞれ小 学校1年、中学校1 年でツ反陰性の者 のみ対象となる

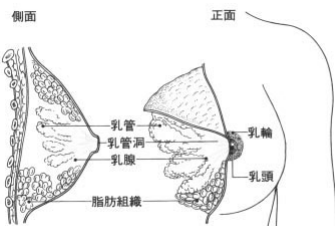
●任意接種

種 類	接 種			備 考
	対象年齢	回数	間 隔	
インフル エンザ おたふく かぜ	全年齢 特に、保育所、幼稚園、小学 校、中学校の児童生徒、高齢者	2回	1~4週(3~4週 が望ましい)	
水痘*	1歳以上の未罹患者	1回		・副反応は少ないが、ときに接種2~3週間後の一 過性の耳下腺腫脹や発熱がみられることもある。 また、まれに髄膜炎の報告もある
B型肝炎	1)母子垂直感染防止 HBe抗原陽性の母親から生まれ たHBeB抗原陽性の乳児	3回	通常生後 2、3、5カ月	・(1)では出生直後(できるだけ早く、遅くとも48時 間以内)と生後2カ月にHB免疫グロブリンを通 常1ml筋注、(2)では出生直後のみHB免疫グロブ リンを同量筋注する ・ワクチン3回接種後にHBe抗原、抗体検査するの が望ましい ・必要に応じて追加接種をおこなう
	2)HBe抗体陽性キャリア母から生 まれたHBeB抗原陽性の乳児	3回	通常生後 2、3、5カ月	
	3)ハイリスク者 医療従事者、腎透析を受けている 者など	3回	1カ月間隔で2回、 その後5~6カ月 後に1回	

\*接種対象は主として悪性腫瘍やネフローゼなどの免疫不全状態で、水痘が重症化するおそれがあるものが中心である。  
また、希望により健康児にも接種をおこなう



●内性器の構造(側面)



●乳房の構造

●子宮出血を伴う婦人病一覧

病 名	出血状況	腹痛	発 熱	そ の 他
子宮腔部びらん	接触による軽い出血	(-)	(-)	経産婦に多い
子宮頸管ポリープ	接触による軽い出血	(-)	(-)	頸管炎、内膜炎に 関係あり
子宮頸がん	はじめは接触出血、 のちには持続性で 膿などがまじる	(-)	初期には (-)	40歳以後に多い 定期検診を!
子宮内膜炎	分娩後のものは血 性膿性	(+)-( -)	(+)-( -)	不妊症、結核、性 病等と関係あり
機能性子宮出血	出血以外に子宮等 に器質的変化なし	(-)	(-)	基礎体温等が参考 となる
子宮筋腫	過多または頻発月 経のほか月経困難 症あり	(-) 大きくなると 圧迫痛あり	(-)	30歳以上の婦人で 不妊症と関係あり 貧血があれば一応 筋腫も疑う
子宮体がん	少量の血液がまじ った漿液性帯下	ときに陣痛様 の痛みあり	(-)-( +)	50~60歳代に多い 閉経後の出血はま ず体がんを疑う
子宮肉腫	肉汁様不正子宮出 血	(-)	(-)	がんにくらべ若年 者に多い
絨毛性腫瘍	暗赤色の不正子宮 出血	(-)	(-)	妊娠反応陽性、胎 状奇胎、流産と関 係あり
急性子宮付随器炎	過多月経および不 正出血	(+)	(+)	抗生物質等が好転 する
卵巣腫瘍	不正子宮出血の断 続	(-) 基捻転時には (+)	(-) 基捻転時には (+)	卵巣腫瘍が触れる
流 産*	少量の出血持続、 時に大量	(+)	(-)-( +)	無月経、つわり等 あり
子宮外妊娠*	少量の出血持続	(-)-( +)	(-)-( +)	超音波・妊娠反応で 妊娠の中絶前の無症 状時にも診断される ことがある
胎 状 奇 胎*	断続的な暗赤色の 出血、のちに大出 血	(-)-( +)	(-)	超音波でむかしに くらべ早く診断がつく、 フォローアップが大切

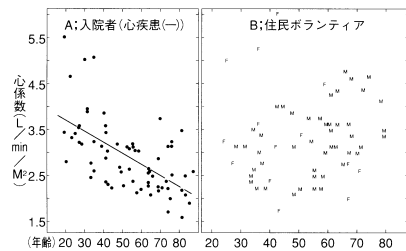
\*印は妊娠に関連する疾患  
(-)なし、(+)あり、(+)相当あり、(+)強くあり。

【資料・家庭の医学10】



●乳房の腫瘤のできる場所

【資料・家庭の医学11】



●“正常人”心拍出量の加齢変化

【資料・家庭の医学12】

●パーキンソン病の重症度

ヤールの重症度分類		生活機能障害度	
1度	左右どちらか一側性の障害。振戦や固縮がみられる	1度	日常生活、通院に介助を必要としない
2度	障害が両側性である。姿勢、固縮、無動などが両側にみられる	1度	
3度	明らかな歩行障害あり。姿勢反射障害あり。突進現象がみられる	2度	日常生活、通院に介助を要する
4度	起立や歩行など日常生活動作の低下がいちじるしい。労働能力が失われる。	2度	
5度	完全な廃疾状態。介助による車椅子歩行。寝たきりの状態	3度	日常生活に全面的な介助を要し、起立歩行は不能である

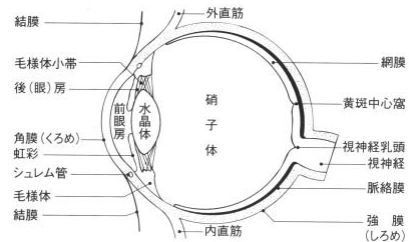
\*どの段階まで進むかは個人差があり、すべての患者が5度になるわけではない

【資料・家庭の医学13】



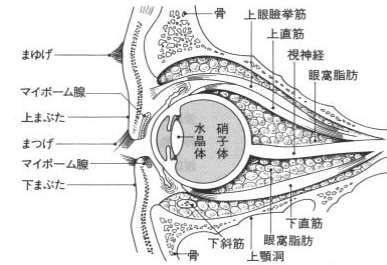
●面 疔

【資料・家庭の医学14】



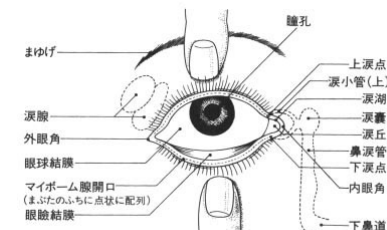
●眼球(右眼)の断面を上から見た図

【資料・家庭の医学15】



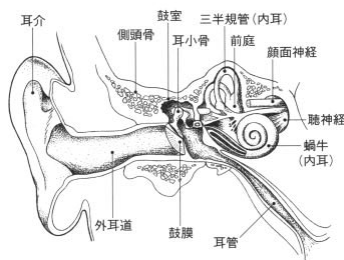
●眼窩の縦断面図

【資料・家庭の医学16】



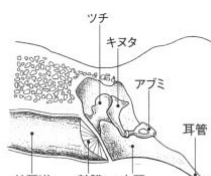
●涙 器(右眼)

【資料・家庭の医学17】



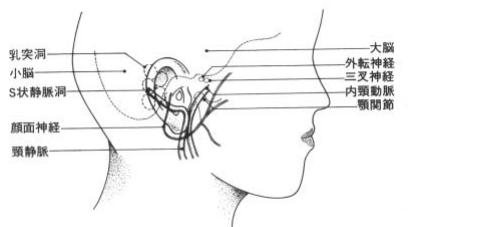
●耳の構造

【資料・家庭の医学18】



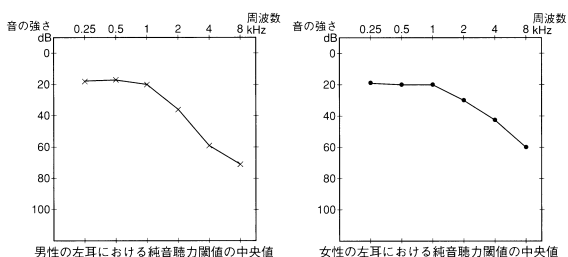
●ツチ、キヌタ、アブミという三つの骨

【資料・家庭の医学19】



●耳の近くにある組織

【資料・家庭の医学20】



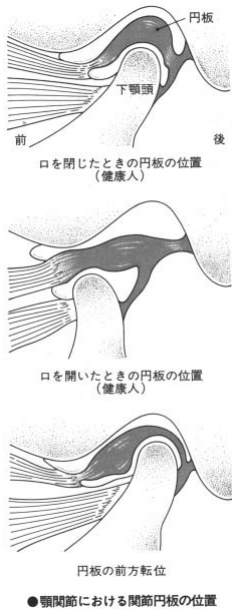
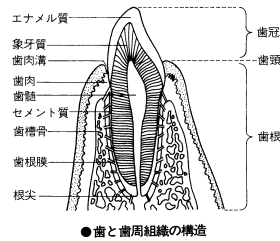
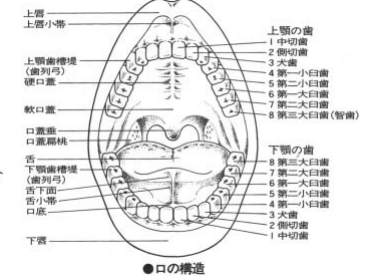
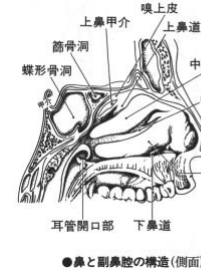
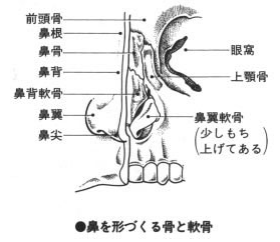
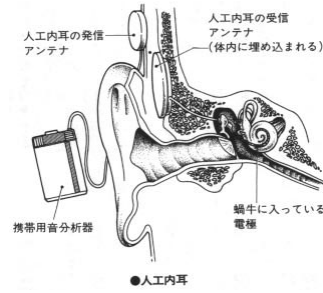
【資料・家庭の医学21】

●補聴器のいろいろ

種 類	説 明
①箱形補聴器	本体はポケットに入れる。またイヤホンのコードを長くして本体をテレビの近くに置くと、テレビの音を大きくなくても聞くことができることがある。
②耳かけ補聴器	本体は耳たぶ(耳介)のうしろに下げるので、あまり目立たない。しかしつけていることはわかる。装着がゆるいのでテニスなどの運動では、はずれることがある。
③眼鏡型補聴器	眼鏡のツルに器械が入っているので、太いツルでつけているのわかる。
④挿耳型補聴器	本体は小さく、イヤホンと一体となっている。耳介の中心部の平らなところに本体をはめ、イヤホンを外耳道に挿入する。外側(シェルという)は各個人の耳のかたちにあわせたオーダーメイドとなる。装着はしっかりとおり、運動してもはずれることはないが、湿気がこもって効率が落ちることがある。
⑤耳穴型補聴器	挿耳型よりさらに小さく、耳の穴(外耳道)にすっぽりとおさまり、外からはほとんど見えない。あらかじめ性能をセットしておくので装着のたびに調整する必要がない。シェルはオーダーメイドであり、装着もしっかりしている。湿気のこもることは挿耳型と同じである。

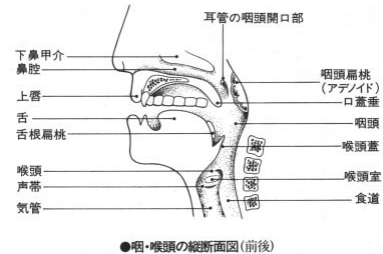
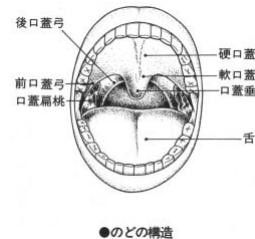
●補聴器の型と利点・欠点

	利 点	欠 点	使 用
箱型補聴器	音質がよくピーピー音が少ない 話し手の口もとに器械を近づけられる いろいろな調節ができる スイッチなどの操作が楽	コードがじゃまになる 固定しにくく衣服のすれる音が入る うしろから呼ばれるとき不便 つけていることがすぐわかる	中等度・高度の難聴によい
耳かけ型補聴器	小さくて目立たない 耳の位置にあるので自然な音感がある 日常の動作に便利 フル・デジタル型で性能が大幅に向上	スイッチなどの操作がむずかしい 運動で落としやすい 眼鏡がかけられない	軽度・中等度・やや高度の難聴によい
眼鏡型補聴器	眼鏡と併用できる 耳の位置にマイクがあるので自然な音感がある 目立たない 両耳補聴が可能	スイッチなどの操作がむずかしい 性能・音質が劣る 汗で器械がこわれやすい 眼鏡をはずす人には不便	軽度・中等度の難聴によい
挿耳型補聴器	小さくて目立たない 個人の耳の穴にあわせてビタリとつけることができる 耳の位置にあるので自然な音感がある 日常の動作に便利 フル・デジタル型で性能が大幅に向上	横向きで装着がわかる	軽度・中等度・やや高度の難聴によい
耳穴型補聴器	耳の穴のなかにすっぽり入り、まったく目立たない 個人の耳の穴にあわせて型をつくるので、ビタリとつく 自然な音感がある 細かい調節が不要 フル・デジタル型で性能が大幅に向上	小さな子どもでは自分でつけるのがむずかしい 夏に不快感を生ずることがある	軽度・中等度や高度の難聴によい

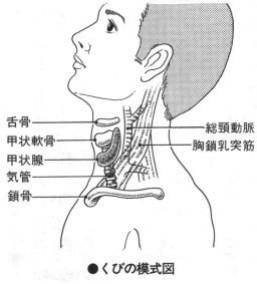


●歯のできる時期と生える時期

歯の名前	歯の芽が できる時期	カルシウムがで き始める時期	上あごの歯が生える時期	下あごの歯が生える時期
乳 中 切 歯	胎生 5 週	胎生 18 週	8～12 カ月	5～10 カ月
乳 側 切 歯	胎生 6 週	胎生 19 週	9～14 カ月	10～15 カ月
乳 犬 歯	胎生 7 週	胎生 20 週	13～19 カ月	15～20 カ月
第 1 乳 臼 歯	胎生 8 週	胎生 21 週	14～19 カ月	15～19 カ月
第 2 乳 臼 歯	胎生 9 週	胎生 23 週	22～31 カ月	21～38 カ月
中 切 歯	胎生 5 カ月	生後 4 カ月	6 歳 5 カ月～7 歳 2 カ月	6 歳～6 歳 4 カ月
側 切 歯	胎生 5 カ月	生後 4 カ月	7 歳 5 カ月～8 歳 5 カ月	6 歳 5 カ月～7 歳 3 カ月
犬 歯	胎生 6 カ月	生後 4 カ月	10 歳～10 歳 8 カ月	8 歳 8 カ月～10 歳 8 カ月
第 1 小 臼 歯	出生直後	生後 20 カ月	9 歳 5 カ月～10 歳	9 歳 5 カ月～10 歳 3 カ月
第 2 小 臼 歯	胎生 8 カ月	生後 28 カ月	10 歳 2 カ月～11 歳 5 カ月	10 歳 5 カ月～11 歳 5 カ月
第 1 大 臼 歯	胎生 4 カ月	出生直後	6 歳～6 歳 5 カ月	5 歳 8 カ月～6 歳 2 カ月
第 2 大 臼 歯	生後 8 カ月	生後 35 カ月	11 歳 8 カ月～12 歳 4 カ月	11 歳 1 カ月～12 歳 5 カ月
第 3 大 臼 歯	4 歳	7～10 歳	20～25 歳	20～25 歳

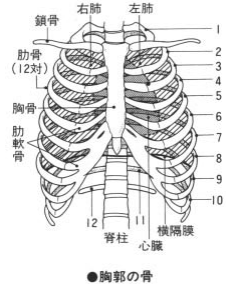


【資料・家庭の医学32】



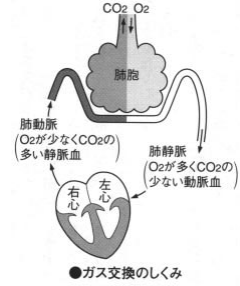
●くびの模式図

【資料・家庭の医学33】



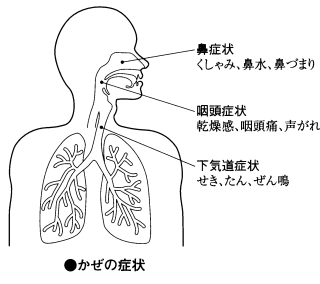
●胸郭の骨

【資料・家庭の医学34】



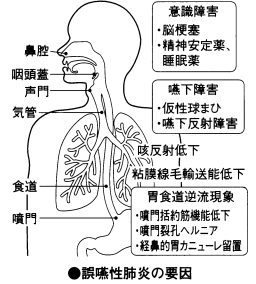
●ガス交換のしくみ

【資料・家庭の医学35】



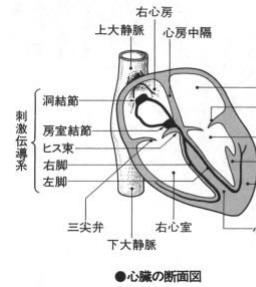
●かぜの症状

【資料・家庭の医学36】



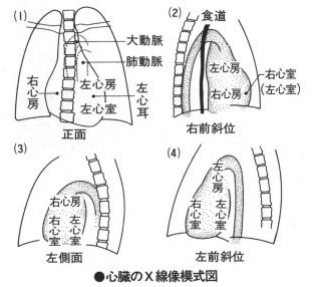
●頭嚙性肺炎の要因

【資料・家庭の医学37】



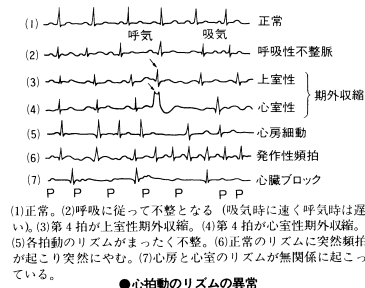
●心臓の断面図

【資料・家庭の医学38】



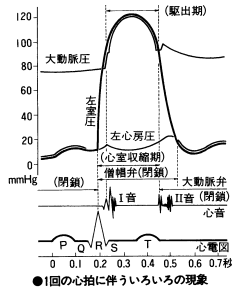
●心臓のX線像模式図

【資料・家庭の医学39】



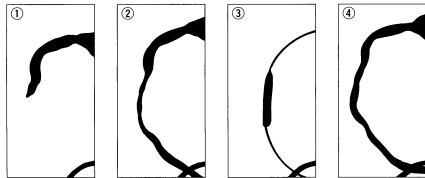
●心拍動のリズムの異常

【資料・家庭の医学40】



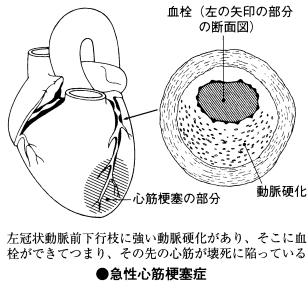
●1回の心拍に伴ういろいろの現象

【資料・家庭の医学41】



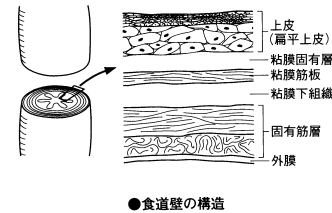
●血栓溶解療法と冠動脈形成術で冠動脈の血流が回復した例

【資料・家庭の医学42】



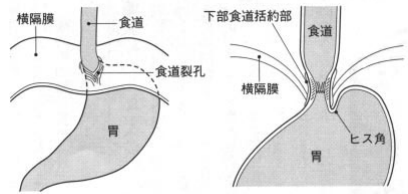
●急性心筋梗塞症

【資料・家庭の医学43】



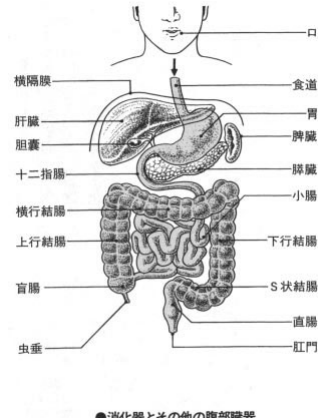
●食道壁の構造

【資料・家庭の医学44】



●食道胃接合の逆流防止機構

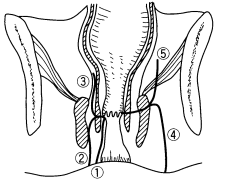
【資料・家庭の医学45】



●消化器とその他の腹部臓器

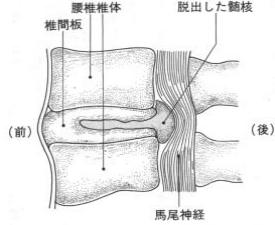


【資料・家庭の医学59】



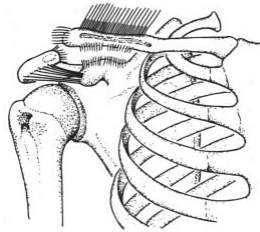
1 結腸下痔瘻 2 低位筋間痔瘻  
3 高位筋間痔瘻 4 坐骨直腸窩痔瘻  
5 骨盤直腸窩痔瘻  
●痔瘻(肛門の縦断面)

【資料・家庭の医学60】



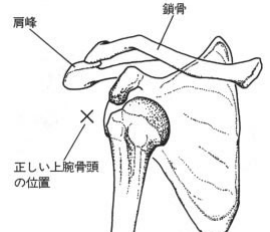
●腰椎椎間板ヘルニアの模式図

【資料・家庭の医学64】



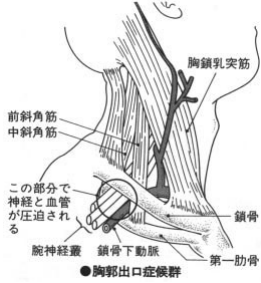
●肩鎖関節の脱臼(鎖骨が上方にずれる)

【資料・家庭の医学65】



●肩関節脱臼

【資料・家庭の医学61】



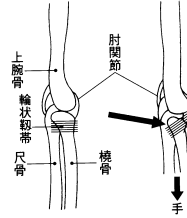
●胸郭出口症候群

【資料・家庭の医学62】



●腱鞘, 滑液包および筋腱鞘

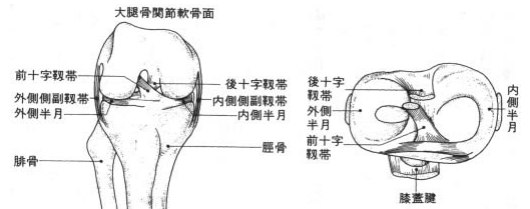
【資料・家庭の医学66】



右図のように手を引っばると輪状靭帯からずれる

●肘内障

【資料・家庭の医学67】

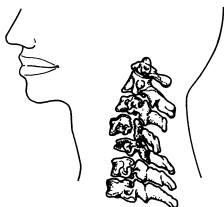


(膝屈曲位前方よりみた図。関節包, 膝蓋骨を除いてある)

(脛骨上端面よりみた図)

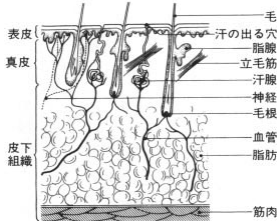
●膝関節の靭帯と半月

【資料・家庭の医学63】



●第四頸椎の脱臼と骨折と第五頸椎体の圧迫骨折

【資料・家庭の医学68】



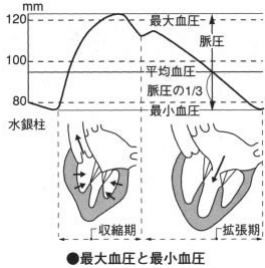
●皮膚の構造

【資料・家庭の医学69】

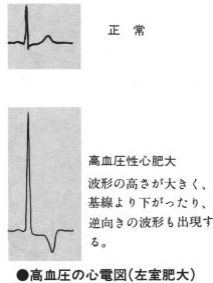


●じんましん

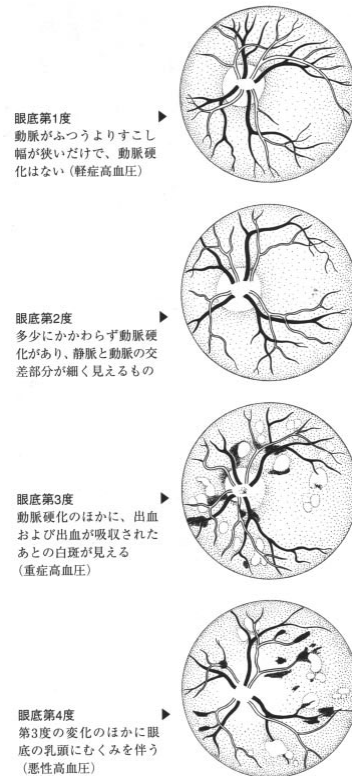
【資料・家庭の医学70】



【資料・家庭の医学72】

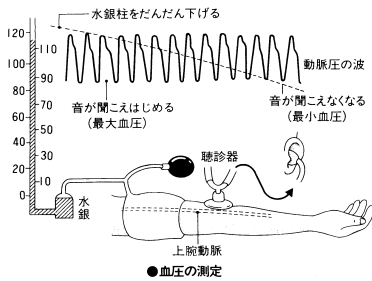


【資料・家庭の医学73】

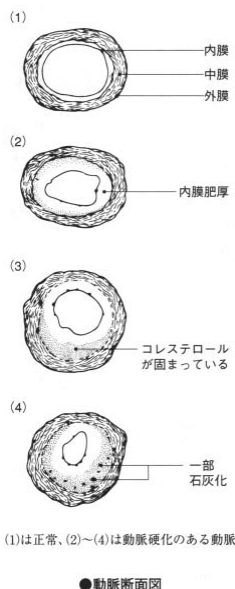


●本態性高血圧の眼底検査

【資料・家庭の医学71】



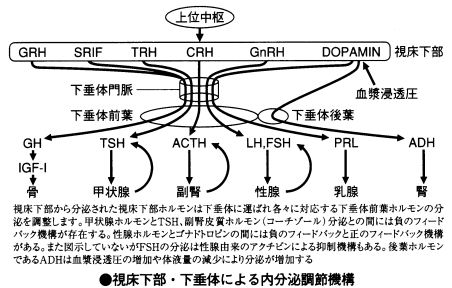
●血圧の測定



●主要なホルモンの作用

組織	ホルモン	作用
視床下部	CRH	ACTH分泌刺激
	TRH	TSH分泌刺激
	GRH	GH分泌促進
	LHRH	ゴナドトロピン分泌刺激
	ソマトスタチン	成長ホルモン分泌抑制、 インスリン分泌抑制ほか
下垂体前葉	成長ホルモン (GH)	成長促進作用、代謝作用
	甲状腺刺激ホルモン (TSH)	甲状腺ホルモン合成分泌促進
	プロラクチン (PRL)	乳汁産生
	ゴナドトロピン (LH, FSH)	性腺刺激作用、排卵刺激
副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	副腎コルチゾール分泌刺激	
下垂体後葉	抗利尿ホルモン (ADH)	水再吸収促進 (腎)
甲状腺	甲状腺ホルモン (T <sub>4</sub> , T <sub>3</sub> )	代謝調節作用、成長促進作用 神経系発達促進
	カルシトニン	血中カルシウム低下作用
副甲状腺	副甲状腺ホルモン (PTH)	血中カルシウム増加作用 (骨吸収促進、カルシウム排泄抑制、ビタミンD活性化作用)
副腎皮質	コルチゾール	塩保持作用、糖新生作用、免疫抑制作用ほか
	アルドステロン	血漿量の維持 (ナトリウム貯留作用)、 カリウム排泄促進
副腎髄質	副腎アンドロゲン (DHEAほか)	たんぱく同化作用、男性化作用
	アドレナリン* ノルアドレナリン*	脈拍促進、血糖増加作用 血圧増加作用
膵臓	インスリン	糖利用促進、たんぱく同化作用ほか
	グルカゴン	血糖増加作用
卵巣	女性ホルモン (エストロゲン)	乳腺、子宮、膈の成熟、機能維持、 骨量維持作用ほか
睾丸	男性ホルモン (テストステロン)	男性化作用、たんぱく同化作用ほか

そのほか心臓からは利尿ホルモン (ANP, BNP)、消化管からは胃酸分泌促進作用をもつガストリンなど数種類のホルモンが分泌される。成長ホルモンでつくられるインスリン様成長因子 (IGF-1) は肝など複数の組織でつくられる。ビタミンという名前がついているが、ビタミンDはホルモンの一つで、腎臓で活性化される。  
\*アドレナリン、ノルアドレナリンはそれぞれエピネフリン、ノルエピネフリンとも呼ばれる。

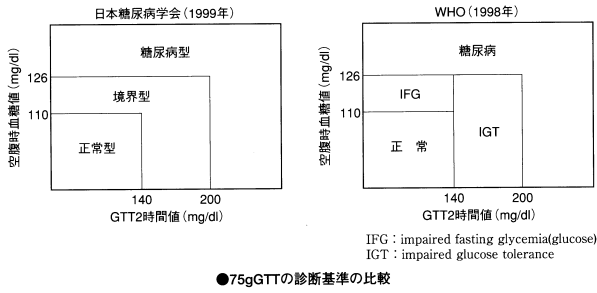
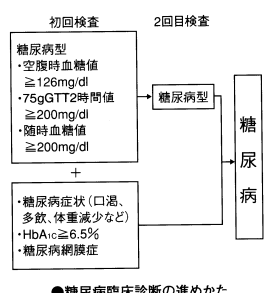
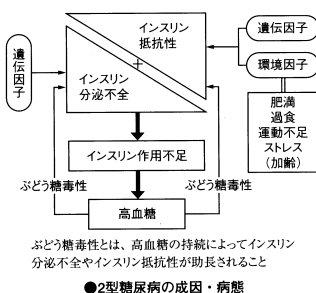


視床下部から分泌された視床下部ホルモンは下垂体に運ばれ各々に対応する下垂体前葉ホルモンの分泌を調整します。甲状腺ホルモンとTSH、副腎皮質ホルモン(コルチゾール)分泌との間には負のフィードバック機構が存在する。性腺ホルモンとゴナドトロピンの間には負のフィードバックと正のフィードバック機構がある。また図示していないがFSHの分泌は性腺由来のアクチンによる抑制機構もある。後葉ホルモンであるADHは血管浸透圧の増加や体液量の減少により分泌が増加する

●75 g GTTの判定区分と判定基準

糖尿病型	ぶどう糖濃度 (mg/dl)		
	空腹時 または/および 2時間値	静脈血漿	静脈全血・毛細管全血
糖尿病型	≥126 または/および 2時間値	≥126	≥110
境界型	正常型にも糖尿病型にも属さないもの	≥200	≥180
正常型	空腹時 および 2時間値	<110	<100
		<140	<120

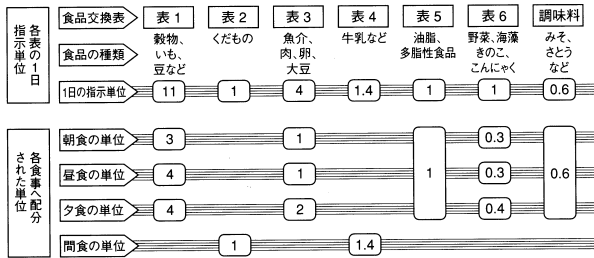
・ 随時血糖値 (静脈血漿) ≥200mg/dl の場合も糖尿病型とみなす  
・ 正常型であっても、1時間値が180mg/dl (静脈血漿) 以上の場合は、180mg/dl未満のものに比べて糖尿病に悪化する危険性が高いので、境界型に準じた取り扱い (経過観察など) が必要である  
・ 静脈血漿 1時間値 ≥180mg/dl に相当する静脈全血値は ≥160mg/dl、毛細管全血値は ≥180mg/dl である (日本糖尿病学会 1999年)



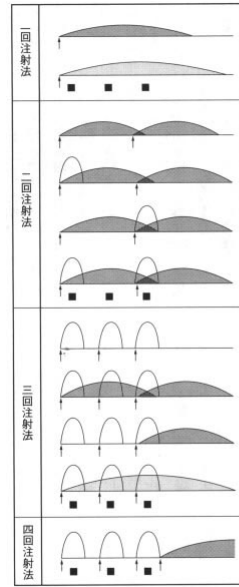
●「食品交換表」の食品の分類とおもな栄養素

名称	食品例	おもな栄養素
表1	・穀物(ごはん、食パン、うどん、スパゲティーなど) ・いも(さといも、じゃがいも、さつまいもなど) ・精質の多い野菜と種実(かぼちゃ、とうもろこしなど)	糖質
表2	・果実(いちご、すいか、グレープフルーツ、オレンジ、レモン、メロン、もも、パイナップルなど)	糖質
表3	・魚介(さけ、たら、いか、あさり、かまぼこなど) ・肉(牛肉、豚肉、ハム、とり肉など) ・卵、チーズ ・大豆とその製品(とうふ、生あけ、あぶらあげなど)	たんぱく質
表4	・牛乳と乳製品(ヨーグルト、スキムミルクなど。チーズを除く)	Ca
表5	・油脂(ドレッシング、マヨネーズ、バターなど) ・多脂性食品(アボカド、生クリーム、ベーコン、ごまなど)	脂質
表6	・野菜(糖質の多い一部の野菜を除く。にんじん、トマト、ほうれん草、しょうがなど) ・海藻(のり、こんぶ、ところねなど) ・きのこ(えのきだけ、しいたけ、なめこ、マッシュルームなど) ・こんにゃく、しらたき	ミネラル
調味料	・味噌、砂糖、みりん、はちみつ、カレールーなど	

(日本糖尿病学会編「糖尿病食事療法のための食品交換表」による)



●1日20単位(1600キロカロリー)の場合



1日1回注射法から1日4回注射法まで代表的な方法。実際には、血糖日内変動などのデータをもとにインスリンの種類を変えたり、インスリン投与量を微調整する

●いろいろなインスリン注射法のパターン

連続型  
中間型  
持続型

連続型+中間型の代わりに混合型製剤を使うことも広くおこなわれている。このようなパターンは代表的なもので、さらに、いろいろな組み合わせがえられる

■食事  
■1インスリン注射

●代表的なインスリン投与方法

●糖尿病性腎症の病期分類(平成3年度厚生省研究班)

病期	臨床的特徴		病理学的特徴 (参考所見)	備考 (提唱されている治療法)
	尿たんぱく(アルブミン)	GFR(Ccr)*		
第1期 腎症前期	正常	正常 ときに高値	びまん性病変 なし~軽度	血糖コントロール
第2期 早期腎症	微量 アルブミン尿	正常 ときに高値	びまん性病変 結節性病変 ときに存在	厳格な血糖コントロール・ 降圧治療
第3期-A 顕性腎症前期	持続性 たんぱく尿	ほぼ正常	びまん性病変 結節性病変 多くは存在	厳格な血糖コントロール・ 降圧治療・たんぱく制限食
第3期-B 顕性腎症後期	持続性 たんぱく尿**	低下	びまん性病変 結節性病変 多くは存在	降圧治療・低たんぱく食・ 透析療法導入**
第4期 腎不全期	持続性 たんぱく尿	著明低下 (血清クレアチニン上昇)	末期腎症	降圧治療・低たんぱく食・ 透析療法導入**
第5期 透析療法期	透析療法中			透析療法・腎移植

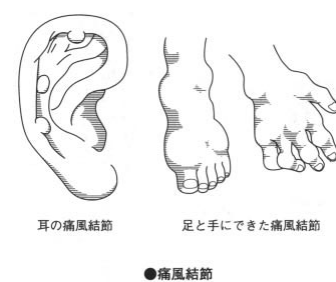
\*GFR(Ccr):糸球体ろ過率(クレアチニンクリアランス)…腎臓のはたらきを示す検査値で、低下は腎臓のはたらきが低下していることを示す  
\*\*:持続性たんぱく尿約1g/日以上、GFR(Ccr)約60ml/分以下をめやすとする

●食品中の脂肪酸、コレステロール含量

食品名	脂肪酸				食品名	コレステロール			
	100g当たり	飽和脂肪酸(S)	一価不飽和脂肪酸(M)	多価不飽和脂肪酸(P)		100g当たり	飽和脂肪酸(S)	一価不飽和脂肪酸(M)	多価不飽和脂肪酸(P)
ごま油	100.0	15.3	40.6	44.1	うなぎ	8.5	35.5	22.1	42.4
サフラワー油	100.0	7.8	14.0	78.2	くるまび	0.7	26.9	25.1	47.9
菜種油	100.0	7.3	59.4	33.3	肉類				
純菜油	100.0	26.2	17.8	56.0	牛肉(かた)		39.7	57.0	2.5
牛乳	99.8	49.8	46.8	3.3	*(ヒレ)		41.5	55.4	2.3
鶏卵	99.3	26.7	46.1	20.3	*(ばら)		36.9	47.9	2.0
鶏卵黄	100.0	41.1	44.3	14.2	*(もも)		35.9	48.2	13.4
マーガリン	82.1	22.7	41.4	34.4	鶏肉(半羽)		35.5	44.6	19.9
					*(もも)		33.4	47.7	18.9
					*(ささみ)		36.6	44.4	18.2
魚介類					*(肝臓)	3.1	43.5	31.3	15.3
あじ	6.9	37.6	36.3	22.5	豚肉(かた)		37.6	42.6	15.7
まいわし	13.8	34.7	31.5	31.8	*(ロース)		40.8	43.3	14.6
うなぎ	21.3	23.4	64.3	11.6	*(ばら)		36.9	47.9	13.3
かつお	2.0	28.0	44.1	27.7	*(もも)		35.9	48.2	13.4
かつま	4.9	38.4	37.3	24.0	*(ヒレ)		26.7	48.3	20.6
かれい	2.2	28.4	39.4	32.0	ベーコン	39.1	39.6	44.0	15.7
きす	1.5	31.9	14.9	53.0	ボンレスハム	4.0	38.1	51.1	10.8
こい	6.0	25.2	58.6	16.3	ボンレスハム	13.8	45.3	42.8	11.9
さけ	8.4	25.9	39.7	34.3	コーンハム				
さば	16.5	25.8	44.4	28.6					
ま	16.2	23.2	51.3	25.4	卵類				
ししゃも	11.0	27.1	55.9	18.1	うずら卵	12.5	39.2	49.1	11.8
まだい	3.4	38.7	20.5	40.7	鶏卵	11.2	36.1	48.5	14.0
またら	0.4	22.3	23.6	54.1					
にしん	17.0	23.0	59.4	17.6	乳類				
ぶり	17.6	30.9	48.5	18.9	普通牛乳	3.2	60.9	30.7	5.0
ほんまぐろ	1.4	30.7	28.7	40.2	バター	81.0	65.5	25.8	1.3
もんごうり		27.7	13.2	59.1					

●食品中の食物繊維含量(可食部100g当たり)

食品名	食物繊維	食品名	食物繊維	食品名	食物繊維
穀類		野菜類		果実類	
食パン	1.9	グリーンアスパラガス	1.2	いちご	2.0
そうめん・ひやむぎ	1.6	さやいんげん	1.3	オレンジ	2.2
小麦胚芽	5.7	うり	4.3	かき	2.0
精白米	1.0	枝豆	2.7	すもも	16.1
干しそば(干)	2.6	グリーンピース	6.2	ななし	2.3
		かぼちゃ	1.9	バナナ	3.4
		カリフラワー	1.1	りんご(国光)	3.9
いも類		かんぴょう	12.6	レモン	5.2
こんにゃく	2.8	きんぎょ	11.8		
さつまいも	0.9	キャベツ	1.1	きのこ類	
さといも	0.7	ごぼう	2.2	えのきたけ	5.1
じゃがいも	0.5	しゅんぎく	1.2	黒きくらげ	44.3
		ぜんまい	5.6	しいたけ(香信)	41.9
種実類		たんけいこ	1.2	なめこ	2.3
アーモンド	14.3	しょうろ	1.0	しめじ	5.6
		とうもろこし	4.5	まつたけ	3.5
落花生	8.1	なたに	1.1		
		にんじん	1.2	藻類	
豆類		れんこん	1.1	ほしのり	14.4
あずき	13.5	にんじん	1.1	りしりこんぶ	13.9
いんげん豆	10.7	ぶどう	1.1	てんぐさ(干)	38.4
えんどう	12.5	ぶどう	1.8	ひじき(干)	35.5
そら豆	8.8	ブロッコリー	1.4	乾燥わかめ	18.0
だいず	7.8	ほうれん草	1.3		
糸納豆	8.0	みづら	1.5		
おか	33.3	わらび	6.0		



●多量がんにおける第一次臓器の例数および頻度(%)

第一次臓器	例数	頻度(%)*
1 胃	703	28.6
2 肺・気管・気管支	606	24.7
3 肝・肝内胆管	387	15.8
4 甲状腺	298	12.1
5 前立腺	293	11.9
6 造血・骨髄	178	7.3
7 結腸	177	7.2
8 直腸	155	6.3
9 食道	153	6.2
10 膵・ラ氏島	151	6.2
11 腎	136	5.5
12 膀胱	117	4.8
13 乳癌	112	4.6
14 リンパ・細網	112	4.6

\*多量がん総数2454例中の頻度  
【日本病理制検報】第27~31報